

2024年3月4日
旭川地区バスケットボール協会 U12 部会
技術普及委員長 中川 明
(文責 佐藤 蓮)

2023年度 冬季大会 総評

今年度最後の大会は、インフルエンザや怪我などの影響により、人数が揃わなかったり、十分に練習を積み重ねることができなかつたりして、万全とは言えなかったチームもあったのではないかと思います。そんな中でも、各チームが団結し、最後まで諦めずにプレーする姿がたくさん見られた、すばらしい大会でした。

今大会について、主に3点挙げさせていただきます。

1点目は、今までの大会でも課題に挙がっていたマンツーマンディフェンス(以下 DEF)についてです。今大会では、積極的にトラップをしかけ、W チームを行う場面が多く見られました。U12 世代ではトラップは推奨されていませんが、戦況によって用いる場合は、注意が必要です。マンツーマン DEF では、まず「マッチアップしていること」が前提になります。DEF が W チームを仕掛けるつもりで、最初からエリアを占めている場合は、旗の対象となります。また、W チームを連続で行う際には、DEF はボールの移動に合わせて人から人(次のボールマン)へ移動するのであれば問題ありませんが、人からエリアへ移動、またはエリアを占めてから(様子を伺ってから)再度 W チームへ行くことは、旗の対象となります。他にも、W チームが成立している時に、他の3人の DEF が残りの4人のオフense(以下 OFF)を守るためにエリアを守ることは許容されていますが(マンツーマン基準規則 5-3-2)、W チームが解消された場合は、エリアを占めたままではなく、必ずマッチアップし直さなくてはなりません。これから各チーム春季大会へ向け、新チームでの練習が本格的に始まると思います。下に JBA より示されているマンツーマン推進の資料も載せてありますので、正しいマンツーマン DEF について再度チームで確認して、練習してほしいと思います。

2点目は、チーム OFF についてです。各チームの6年生が身体的にも精神的にも成長しており、多彩なドリブルから仕掛ける力強い 1 on 1 が多く見られました。反面、個人の能力に頼った OFF になってしまい、スペースが狭く、ペイントエリア内でボールを奪われてしまう場面も多く見られました。1 on 1 が起こった時のボールマン以外のプレーヤーが、動きを止めその場に滞在していることが多いため、DEF がしっかりとヘルプポジションを占めることができていることが要因だと考えられます。そのため、オフボールのプレーヤーがカッティングするなどのスペースを生み出す動きと、そのスペースを上手く使った OFF(中に飛び込む動き・タイミングのよい 1 on 1 など)を今後強化していく必要があると考えます。また、ペイントエリアに侵入した際にも、レイアップまで行けるのか、止ま

ってシュートすべきなのか、キックアウトでパスすべきのかなど、DEF の状況から適切に判断する力の育成も今後必要になってきます。以下の点を意識して練習してほしいと思います。

3つ目は、安全面についてです。今大会では、ゲーム中に靴紐がほどけてしまう選手が多かったように感じます。プレー中に靴紐がほどけてしまうと、思わぬ怪我につながることもあります。また、ゲームも中断せざるを得ません。試合に臨む選手として、靴紐は二重で縛るなど身なりを整えて試合に参加できるとよいと思います。

最後に、この1年間で選手たちは大きく成長することができました。子どもたちがこれからもバスケットボールを通して選手としても人としても成長できるこの環境を、指導者と育成会が一丸となって大切にしてほしいと思います。

以上、今大会の総評とさせていただきます。

【JBA マンツーマン推進リーフレット資料】

